総合的な水資源管理の方向性

高度成長期 ｜ 現　在 ｜ 今　後

大都市において急増する水需要に供給をキャッチアップする必要

水資源開発促進法に基づいてフルプランを策定、水資源開発を促進

施設整備を集中的に実施

節水の普及	工業用水の回収率向上	水稲作付面積・農地面積 の減少	人口減少の始まり

水需要に供給が追いつかない状況からは脱却

課題

- 施設の老朽化進行等による事故時リスク、大規模地震発生の可能性高まりによる災害時リスクの増大
- 安全でおいしい水への要請
- 水系全体で見ると課題の残る施設配置と利用（供給面、水質面）
- 進まない需要面の弾力的水利用・節水
- 豊かな環境への要請
- 地表水との一体的管理がなされていない地下水管理

新たなリスク要因

気候変動

今後も温暖化が続くとの予測（IPCC）

- 供給面での変化（降水特性の変化）
  - ・年降水量の変動増大、降水パターン変化 → 施設の実力低下
  - ・積雪量の減少、融雪時期の早まり → 河川流出量の減少・時期の早まり
- 需要面での変化（気温上昇）
  - ・田植え時期の変更 → 需要時期の変化
  - ・水田、稲、農地、作物等からの蒸発散量の増大 → 需要増大
  - ・飲料水等の需要増大
- 水質面での変化（水温上昇・洪水頻発）
  - ・水源地の水循環、生態系変化、濁水発生 → 水質悪化
- 地下水への影響（海面上昇）
  - ・地下水の塩水化 → 地下水障害
- 高潮災害（台風の大型化）
  - ・ゼロメートル地帯での高潮災害の危険性 → 浸水被害による断水

開発からマネジメントへ

- 危機管理
- 質の重視
- 水環境への配慮
- 水資源の有効利用
- 気候変動リスクへの対応

水利用のより一層の安定性確保

総合的な水資源マネジメントが必要